

WHO news May 2024

2024年5月2日

[Strengthened global capacities on climate change and health: WHO training in Madrid](#)

In Madrid, the recent WHO training covered a wide range of topics on climate change and health, equipping participants with practical tools and insights drawn from diverse country experiences.

気候変動と健康に関する WHO 研修

2024年3月6～7日にマドリッドで開催された WHO 気候変動と健康に関する研修 (CCH : climate change and health) には、77カ国から160名を超える代表者が参加しました。

この研修では、気候変動の脆弱性と適応 (V & A : vulnerability and adaptation) の評価、気候変動資金へのアクセス、国家決定貢献 (NDC : Nationally Determined Contributions) への保健の統合、保健医療国家適応計画 (HNAPs : Health National Adaptation Plans) 、気候変動に強く環境的に持続可能な保健医療システムと施設の構築、温室効果ガス (GHG) 排出量の測定など、気候変動と健康に関する幅広いトピックが取り上げられました。

参加者は、長期的低排出開発戦略 (LT-LEDS) 、低炭素持続可能な保健システム (LCSHS) のための行動計画、CCH のコミュニケーションとアドボカシー、保健医療施設における温室効果ガス排出量の評価など、新たなトピックを含め、継続的な技術能力開発の必要性を強調し、研修後のフィードバックで、WHO の CCH 研修が各自の関連業務に有益な影響を与えたことへの強い感謝の声が寄せられました。

2024年5月2日

[Governments near agreement on package of amendments to the International Health Regulations \(2005\)](#)

In the eighth meeting of the Working Group on Amendments to the International Health Regulations (WGIHR), which was suspended yesterday until 16 May, State Parties to the IHR took a major step towards agreeing on the package of amendments which will be put forward to the World Health Assembly, which takes place from 27 May–1 June.

国際保健規則 IHR (2005) 改正案、近々各国政府間で合意

国際保健規則改正作業部会 (WGIHR : Working Group on Amendments to the International Health Regulations) の第8回会合 (4.22～4.27 中断) で、IHR 締約国は、世界保健総会 (5.27～6.1) に提出する改正案の合意に向け、大きな一歩を踏み出しました。

COVID-19 パンデミックを受けて IHR 締約国が提案した修正案は、パンデミックの脅威を感知し対応する国際社会の能力を強化するためのもので、5月に開催される世界保健総会に提出するための

合意されたパッケージをまとめ、その検討と、合意が得られれば正式な採択に向けて、5月16日から17日に再開される第8回会合でさらに議論されます。

また、パンデミック協定の交渉は4月29日に再開され、5月10日まで続きます。

(備考) IHR には、194 の WHO 加盟国にリヒテンシュタインとローマ教皇庁を加えた 196 の締約国が加盟しています。改正は、拒否または留保を WHO 事務局長に通知した国を除き、一定期間後にすべての締約国に対して発効します。

2024年5月2日

[WHO reports widespread overuse of antibiotics in patients hospitalized with COVID-19](#)

New evidence from the World Health Organization (WHO) shows the extensive overuse of antibiotics during COVID-19 pandemic worldwide, which may have exacerbated "silent" spread of antimicrobial resistance (AMR).

WHO : Covid-19 入院患者における抗生物質の過剰使用を報告

世界保健機関 (WHO) が発表した新たな証拠によると、COVID-19 パンデミックが世界中で大流行した際に抗生物質が過剰に使用され、それが薬剤耐性 (AMR : antimicrobial resistance) の静かな (silent) 蔓延を悪化させた可能性があります。

Covid-19 の入院患者のうち、抗生物質を必要とする細菌感染症を併発していたのはわずか 8 % でしたが、約 75 % の患者が「念のため」抗生物質による治療を受け、使用率は、西太平洋地域の患者の 33 % から、東地中海地域とアフリカ地域の 83 % に及びました。

WHO は、AMR のリスクに応じて、AWaRe (Access、Watch、Reserve) 分類に従って抗生物質を分類し、耐性菌の可能性が高い「要注意」の抗生物質が最も頻繁に処方されていることがわかりましたが、Covid-19 で入院した患者の標準化された個人レベルの匿名化された臨床データのリポジトリである「WHO Global Clinical Platform for Covid-19」の 2020 年 1 月から 2023 年 3 月までの 3 年間に 65 カ国の Covid-19 で入院した患者約 45 万人から収集されたデータに基づいた分析によると、Covid-19 患者の臨床アウトカムは改善しませんでした。このことは、患者と集団の両方にとって不必要な悪影響を最小限に抑えるために、抗生物質の合理的な使用を改善することが緊急に必要であることを強調しています。

2024年5月2日

[WHO and IFC partnership for local manufacturing of health products](#)

WHO and IFC have built a strong partnership focused on localization of manufacturing of medical countermeasures in developing countries.

WHO と国際金融公社が、健康製品の現地製造に向けたパートナーシップ

を締結

WHO と IFC (国際金融公社) は、開発途上国における医療用医薬品製造の現地化に焦点を当てた強力な協力関係は、WHO と IFC の一貫した緊密な対話に根ざしており、この間、両組織は製造業者やグローバル・ヘルス・エコシステムの主要な利害関係者を共同で招集し、現地製造にまつわる機会や課題について議論してきました。

今回は、健康製品の現地製造と将来のパンデミックへの備えに関するアジェンダを前進させるための新たな試みで、この協力関係の核となるのは、低所得国における将来のパンデミックに対処する上で鍵となる、民間セクターによる解決策の準備、予測可能性、可視性を高めるための共同努力です。

WHO と IFC の協力関係は、両機関のそれぞれの強みを生かしたものです。IFC の強みは、民間セクターを招集し、民間投資を動員することであり、WHO はこれに加えて、グローバルヘルス、生態系の強化、規制基準を満たす製造業者の能力構築に関する重要な世界的使命を通じて貢献します。

2024 年 5 月 2 日

[Statement on the antigen composition of COVID-19 vaccines](#)

The WHO [Technical Advisory Group on COVID-19 Vaccine Composition](#) (TAG-CO-VAC) meets regularly to assess the impact of SARS-CoV-2 evolution on the performance of approved COVID-19 vaccines.

Covid-19 ワクチン抗原組成に関する声明

Covid-19 ワクチン組成に関する WHO 技術諮問グループ (TAG - CO - VAC) は、承認された Covid-19 ワクチンの性能に対する SARS-CoV-2 の進化の影響を評価するために定期的に会合し、2024 年 4 月 15 日の再招集では、SARS-CoV-2 の遺伝的および抗原的進化、SARS-CoV-2 感染および/または Covid-19 ワクチン接種に対する免疫応答、現在承認されている SARS-CoV-2 変種に対するワクチンの性能、Covid-19 ワクチン抗原組成の意味について検討しました。

キーポイントは以下の通りです。

- SARS-CoV-2 は、スパイクタンパク質の重要な遺伝的・抗原的進化に伴い、循環・進化を続けている。
 - Covid-19 ワクチン抗原組成の更新の目的は、循環している SARS-CoV-2 亜種に対するワクチン誘発免疫応答を強化すること。
 - このウイルスは JN.1 から進化し続けると予想されるため、TAG-CO-VAC は、Covid-19 ワクチンの将来の製剤において、抗原として一価の JN.1 系統を使用するよう助言。
 - WHO の SAGE の方針に従い、ワクチン接種プログラムでは、既存の認定された Covid-19 ワクチンのいずれかを引き続き使用するべきであり、最新の組成のワクチンへのアクセスを見越してワクチン接種を延期すべきではない。
-

2024年5月2日

[WHO and France convene high-level meeting to defeat meningitis](#)

Global leaders highlight the need to defeat meningitis – a leading cause of disability – at a high-level meeting co-hosted by the World Health Organization (WHO) and Government of France, under the High Patronage of Emmanuel Macron, President of the French Republic.

WHO とフランス、髄膜炎撲滅に向けたハイレベル会合を開催

細菌性髄膜炎は罹患した人の 6 人に 1 人を死亡させ、5 人に 1 人は長期にわたる障害を残しています。しかし、こうした死亡や障害の多くはワクチンで予防可能です。髄膜炎の流行は、サハラ以南のアフリカ 26 カ国からなる「髄膜炎ベルト」と呼ばれる地域に住む人々に不釣り合いな影響を与えます。

世界保健機関 (WHO) とフランス政府共催のハイレベル会合が、4 月 26 日 ~ 27 日にパスツール研究所で開催されました。

ナイジェリアが、アフリカにおける 5 つの主要な細菌性髄膜炎株を対象とした、安全で効果の高い新ワクチンの導入に成功したことを受け、指導者たちは、行動への触媒となる投資を必要とする「2030 年までに髄膜炎を撲滅する」ための世界的なロードマップの実施を約束しました。このロードマップが完全に資金提供され、実施されれば、2030 年までに髄膜炎の約 3 百万件の発症と少なくとも 90 万人の死亡を防ぐことができ、10 年間で 40 億 ~ 100 億米ドルの医療費と数十億米ドルの間接費を削減できると試算されています。

フランスはパラリンピックの機会を利用して、髄膜炎患後遺症患者の健康とウエルビーイング、教育、雇用へのアクセス、収入への影響を懸念し、彼らの充実したより質の高い生活を享受できる道筋を示しました。加えて、WHO は現在、優先順位の高い研究活動を迅速に進め、主要な戦略や政策の更新と開発を継続し、WHO の全 6 地域の国々が国別髄膜炎計画を策定するのをさらに支援することを目指しています。

2024年5月2日

[Triple billion targets policy solutions matrix, updated December 2023](#)

The Triple Billion Targets Policy Solutions Matrix has been developed to help bridge the step from data to delivery by collating some of the latest information on policies, strategies, and/or interventions that have been developed by technical programmes for achieving measurable impact to improve health.

トリプル 10 億目標・政策ソリューション マトリクス (2023 年 12 月更新)

「トリプル 10 億目標・政策ポリシー・ソリューション・マトリクス (The Triple Billion Targets Policy Solutions Matrix)」は、健康を改善するための測定可能な効果を達成するために技術プログラムによって開発された政策、戦略、介入に関する最新情報の一部を照合することによ

り、データから提供までのステップの橋渡しを支援するために開発され、表頭は各成果指標の行で構成されており、関連する SDG / 10 億目標が含まれ、列には、グローバル戦略とガイダンス、政策提言とモニタリング、テクニカル・パッケージとその他のツールを指す主要なリソースへのリンクが示されています。

2024 年 5 月 2 日

[Tackling NCDs: best buys and other recommended interventions for the prevention and control of noncommunicable diseases, 2nd ed](#)

This document provides an updated list of “best buys” and other recommended interventions to address noncommunicable diseases (NCDs).

非感染性疾患の予防と制御のためのベストバイとその他の推奨される介入 (第 2 版)

非感染性疾患 (NCDs) は現在、全世界の死因のほぼ 4 分の 3 を占めていますが、NCDs とその主要な危険因子の予防と管理における進展は不十分かつ不均一であり、2030 年までに NCDs による早期死亡を 3 分の 1 削減するという SDGs の目標を達成できる国はほとんどありません。

本書は、NCDs に対処するための「ベストバイ best buys」やその他の推奨される介入策の最新リストを提供するもので、2013 年に初めて承認され、2017 年に最終更新された「非感染性疾患の予防と制御のための世界行動計画 2013 - 2020」の付属書 3 に基づいています。

世界行動計画の付属書 3 の更新は 2022 年に行われました。NCDs の 4 つの主要な危険因子 (タバコ、アルコールの有害な使用、不健康な食事、運動不足) と 4 つの疾患領域 (心血管系疾患、糖尿病、慢性呼吸器疾患、がん) それぞれについて、政策オプション、費用対効果、推奨される介入策のメニューを提示し、また、関連する政策オプションも提供しています。2030 年まで延長された世界行動計画には 6 つの目標があり、これらを国レベルで実施することで、9 つの NCD 自主目標の達成を支援し、good health とウエルビーイングに関する持続可能な開発目標 (SDG) 3 の実現を促進します

2024 年 5 月 2 日

[WHO consolidated guidelines on tuberculosis: module 6: tuberculosis and comorbidities](#)

Addressing comorbidities and risk factors for tuberculosis (TB) is a crucial component of the World Health Organization (WHO)’s End TB Strategy. These consolidated guidelines on tuberculosis.

結核に関する WHO 統合ガイドライン : 「モジュール 6 : 結核と併存疾

患」

結核の併存疾患や危険因子への対処は、世界保健機関（WHO）の結核終息戦略(End TB Strategy)の重要な要素です。

結核と主な併存疾患に対処するための介入に関する世界的なガイダンスはさまざまな出版物に掲載されていますが、その取り込みにはばらつきがあります。

WHO は結核に関するガイドラインを統合しました。

『モジュール 6：結核と併存疾患』は、結核と主な併存疾患に関する最新の WHO 勧告を要約したものです。この初版は、HIV に関連した結核への介入に焦点を当て、「結核と HIV の共同活動に関する WHO の方針：国家プログラムおよびその他の利害関係者のためのガイドライン」を更新したものです。HIV 感染者は、HIV に感染していない人に比べ、結核を発症する可能性が 12 ～ 16 倍高く、結核治療のアウトカムが悪く、結核治療中の死亡率が 3 倍高くなります。結核のスクリーニング、診断、治療、予防が進歩したにもかかわらず、結核は依然として世界の HIV 感染者の死亡原因の第 1 位です。

この統合ガイドラインは、保健省、特に結核プログラム、結核の併存疾患や健康に関連する危険因子を担当する関連部署やプログラム、メンタルヘルスや肺の健康に取り組むプログラム、技術機関や資金提供機関を含む実施パートナー、市民社会、影響を受ける地域社会の代表者、臨床医や公衆衛生専門家に従事する人々の使用を目的としています。

2024 年 5 月 2 日

[Joint FAO/WHO/WOAH preliminary assessment of recent influenza A\(H5N1\) viruses](#)

This joint FAO/WHO/WOAH risk assessment focuses on A(H5N1) viruses characterized since 2021 and assesses the public health risk as well as the risk of the virus spread among animals.

FAO / WHO / WOAH 合同による最近のインフルエンザ A (H5N1) ウイルスの予備評価

2020 年、高病原性鳥インフルエンザ (Highly pathogenic avian influenza : HPAI) A (H5N1) クレード 2.3.4.4b ウイルスは、主に渡り鳥を介してアフリカ、アジア、ヨーロッパの多くの地域に広がり、これにより、かつてない数の野鳥が死に、家禽ではアウトブレイクが発生しています。

2021 年後半にはこれらのウイルスが北米に渡り、その後 2022 年 10 月には南米に渡りましたが、さらに世界的に、野生および家畜（伴侶動物や養殖動物を含む）の陸上哺乳類や海洋哺乳類を含む非鳥類種で A (H5N1) ウイルスの検出が増加しており、最近ではアメリカ合衆国のヤギや乳牛でも検出されました。

2020 年以降、遺伝学的に特徴づけられた HPAI A (H5N1) ウイルスの大半は、ほぼ 2.3.4.4b クレードに属しています。2021 年に入ってから、A (H5N1) ウイルスに感染していると推定される乳牛やヒトにおける A (H5N1) の検出が 28 件 WHO に報告されていて、これらのヒト感染例のうち、ヘマグルチニン (HA) H5 クレードが判明している 13 例は、クレード 2.3.4.4b ウイルスによるものです。

この FAO (国連食糧農業機関) / WHO / WOA (国際獣疫事務局) 合同リスクアセスメントでは、2021 年以降に特徴付けられた A (H5N1) ウイルスに焦点を当て、公衆衛生リスクだけでなく、動物間でのウイルス拡散リスクも評価しています。

2024 年 5 月 2 日

[Health on the frontlines: caring for Haiti's displaced population](#)

Since February 29, 2024, Haiti faces an intensified security crisis, marking a new stage in the violence already impacting a struggling healthcare system, and further complicating access to care for millions of Haitians.

ハイチ避難民へのケア

2024 年 2 月 29 日以降、ハイチは治安危機の激化に直面しており、更なる状況の悪化や暴力が新たな段階を迎え、何百万人ものハイチ人のすでに苦境にあった医療制度に医療へのアクセスがさらに複雑になっています。

この危機はハイチで最も弱い立場にある人々を最も苦しめており、その中には約 86,040 人が住むポルトープランスの首都圏にある 84 の国内避難民 (IDP) 居住地のひとつに住む人々も含まれています。

移動診療所は、避難民がヘルスケアを受けやすくする上で極めて重要で、3 月中旬から活動を再開した移動診療所は、ポルトープランス首都圏の数カ所ですすでに 1,000 件以上の健康相談を実施しました。医師 6 人、補助看護師 10 人、助産師 2 人、心理学者 3 人、心理社会・地域医療従事者 12 人が配置された移動診療所では、一般的な医療サービスのほか、性と生殖に関する健康、心理社会的な相談にも応じています。また、地域医療従事者は、クリニックを利用して啓発活動も行っています。

PAHO / WHO は、後方支援や技術支援、医療製品の供給を通じて、この活動を支援しています。

2024 年 5 月 2 日

[Public health round-up](#)

The civil war in Sudan passed the one-year mark on 15 April. The nationwide conflict has created the world's largest humanitarian crisis with some 24.8 million people assessed to require humanitarian assistance in 2024, 9 million more than in 2023.

公衆衛生ラウンドアップ (総まとめ)

1) スーダン危機から 1 年

スーダンの内戦が 4 月 15 日に 1 年を迎え、紛争は世界最大の人道危機を引き起こし、支援を必要とする人々の数は、約 2,480 万人に上ると予測されている。

2) 廃墟と化したガザの健康システム

住民に医療サービスを提供していた 36 の主要な病院のうち、10 病院しか機能しておらず、提供できるサービスも厳しく制限されている。

3) ポリオ緊急事態は 10 年目も維持

国際保健規則 (2005) に基づく、緊急委員会の第 38 回 会合は、ポリオウイルスの国際的拡大の危険性が依然として国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC) である事に合意し、事務局長はこの勧告を受け入れ。

4) ナイジェリアが新型髄膜炎ワクチンの接種を開始

ナイジェリアは、WHO 承認の新ワクチン Men5CV を使用した世界初のワクチン接種キャンペーンを開始。

5) 増加する肝炎

2024 年世界肝炎報告書によると、ウイルス性肝炎による死亡者数は増加傾向にあり、年間推定 130 万人は結核による死亡者数に匹敵。

6) コレラ診断イニシアチブ

今後数ヶ月の間にコレラの発生しやすい 14 カ国に 120 万以上の検査キットを配布する世界的なプログラムがスタート。4 月 5 日、マラウイにコレラの迅速診断検査キットが到着。

7) 新しい AI 健康アバター

WHO は、生成 AI (人工知能) を用いて共感的でパーソナライズされた健康情報を提供する新しいデジタルヘルスアバター、SARAH (Smart AI Resource Assistant for Health) を発表。

8) 世界的なパンデミックに関する合意を完成させる

WHO 加盟国は、4 月 29 日から 5 月 10 日まで、世界パンデミック協定の最終化に向けて交渉を継続することに合意。加盟国は、2024 年 5 月 27 日に開幕する第 77 回 世界保健総会で採択予定の、世界初の「パンデミック協定」の文書案を検討する。

2024 年 5 月 7 日

[Rafah incursion would substantially increase mortality and morbidity and further weaken an already broken health system](#)

WHO is deeply concerned that a full-scale military operation in Rafah could lead to a bloodbath. More than 1.2 million people are currently sheltering in the area, many unable to move anywhere else.

WHO : ラファでの本格的な軍事作戦による被害を深く懸念

WHO は、ラファでの本格的な軍事作戦が血の海につながることを深く懸念しています。現在、120 万人以上の人々がこの地域に避難しており、その多くはどこにも移動することができず、新たな避難の波は過密状態を悪化させ、食料、水、健康、衛生サービスへのアクセスをさらに制限し、病気のアウトブレイクの増加、飢餓レベルの悪化、さらなる人命の損失につながるでしょう。

WHO は、軍事侵攻が行われた場合、死亡率や罹患率が大幅に増加することが予想されると警告し、即時かつ永続的な停戦と、ガザ内およびガザ全域に必要な規模の緊急人道支援を届けるための障害を取り除くことを求めます。また、ヘルスケアの尊厳が尊重されることを求めます。命を救うために奮闘する人々が、自らの命を危険にさらすようなことがあってはなりません。

2024年5月7日

[International Development Innovation Alliance and WHO renew collaboration on scale-up of health innovations](#)

The World Health Organization (WHO) and the [International Development Innovation Alliance \(IDIA\)](#) have agreed to renew their strategic Collaborative Agreement to support the scaling of health innovations to the end of 2025 to jointly accelerate health impact.

WHO、国際開発イノベーションアライアンスと健康イノベーションの拡大に関する協力関係を更新

世界保健機関 (WHO) は、194 の加盟国に対し、インパクトのあるイノベーションを各国で最も必要とされているところに結びつけるための支援を行っています。

WHO と国際開発イノベーションアライアンス (IDIA : International Development Innovation Alliance) は、2025 年末まで健康イノベーションの拡大を支援し、健康への影響を共同で加速するための戦略的協力協定を更新することに合意しました。この協力関係は、低・中所得国の利益のために、実証済みの健康イノベーションの需要、供給、評価、スケールアップを促進・促進するために 2021 年初めに設立されたもので、IDIA の経験と、世界中のイノベーション資金提供者のための主要なコラボレーション・プラットフォームとしての地位を考慮すると、このコラボレーションは、グローバルヘルスにおける最大の課題に取り組むコレクティブインパクト (Collective Impact) をさらに加速します。

(備考) IDIA は、世界有数の開発機関のイノベーション・チーム、ラボ、部門のシニア・リーダーを集めたユニークなコラボレーション・プラットフォームです。2015 年にロックフェラー財団によって設立されました。

2024年5月7日

[Global cooperation towards enhanced surveillance of foodborne diseases](#)

On 6–8 May 2024, the WHO Nutrition and Food Safety Department is hosting the inception meeting for the WHO Alliance for Food Safety in Geneva, Switzerland.

食中毒のサーベイランス強化に向けた国際協力、初会合開催

第 75 回 世界保健総会 (決議 WHA 75 (22)) で採択された戦略では、2030 年までに達成すべ

き具体的なグローバル食品安全目標を定めており、その中には食品由来感染症や汚染のサーベイランスに関する進捗状況指標も含まれていますが、現在、この分野での取り組むメカニズムは存在しません。

このギャップに対処するため、5月はじめに、WHO 栄養・食品安全局はスイスのジュネーブで WHO 食品安全アライアンス (WHO Alliance for Food Safety) の設立総会を開催します。この会議は、食中毒サーベイランスの分野における『WHO 食品安全世界戦略 2022 - 2030』の実施を支援するために実施されます。

この初会合には、64 の WHO 協力センター、食品安全に携わる国連機関およびドナーが参加し、会議の目的は次の 2 項目です。

1. WHO 食品安全アライアンスの職務権限を策定し、食中毒サーベイランス分野における付加価値を特定すること。
2. 各国が 2030 年までに WHO の食中毒サーベイランスの目標を達成できるよう、2023 - 2030 年の作業計画案を策定すること。

2024 年 5 月 7 日

[Global report on neglected tropical diseases 2024](#)

This document is the second in a series of global reports describing progress towards the 2030 targets set in *Ending the neglect to attain the Sustainable Development Goals: a road map for neglected tropical diseases 2021–2030*.

顧みられない熱帯病に関する世界報告書 2024

本報告書は、「持続可能な開発目標達成のための怠慢をなくす：顧みられない熱帯病(NTDs)のためのロードマップ 2021 - 2030」で設定された 2030 年目標に向けた進捗状況を報告する一連のグローバルレポートの第 2 弾です。本報告書では、WHO の 6 つの地域すべてにおける NTDs のポートフォリオに関する広範な活動、成果、課題について述べています。

さらに、横断的指標 6、NTDs 治療用医薬品の寄贈状況、「週刊疫学記録」に掲載された NTDs に関する記事、公表されている対象製品のプロファイル、WHO が公表した世界 NTDs 報告書のリストなどの付属資料によって、報告書の結論と今後の進め方が補足されています。

2024 年 5 月 7 日

[WHO Director-General's remarks at the resumed session of the ninth meeting of the Intergovernmental Negotiating Body – 3 May 2024](#)

You are here for the same reason this Organization was created in the first place – because

global threats demand a global response..

第 9 回 政府間交渉会議再開会合における WHO 事務局長発言

パンデミック協定に係る 第 9 回 政府間交渉会議 (INB) の再開に際して、テドロス事務局長は以下のように述べました。

《DG 発言要旨》

- 1851 年、パリで最初の国際衛生会議が開催され、コレラ、ペスト、黄熱病の蔓延に対する国際的な検疫規則を標準化するため、最初の国際衛生規則が採択された。その理由のひとつは、各国間で検疫要件が異なることが多く、大きな混乱を招いていたためである。
- この最初の会議が、世界保健機関 (WHO) の前身である国際連盟保健機関の設立につながった。
- 1948 年に加盟国が採択した世界保健機関憲章は、疾病、特に感染性疾患の制御が共通の危機であることを認識した。第 1 回 国際衛生会議から 100 年後の 1951 年、第 4 回 世界保健総会で国際衛生規則が採択され、18 年後の 1969 年に国際保健規則となった。
- 皆さんがここでやっている活動は、76 年前に加盟国が WHO を設立した理由の一部であり、過去と深いつながりがある。また、COVID-19 パンデミックの後、すべての加盟国が直面する国内的・地政学的現実という現在とも深いつながりがある。そして、私たちがパンデミックに見舞われた苦しみから後世の人々を守るという点で、あなた方が行っている活動は、未来とも深いつながりがある。
- あなた方の間に意見の相違は残っているが、以前に比べればはるかに小さくなっている。最大の危険は、無関心と不作為だ。このプロセスが困難で、時には痛みを伴うものであったこと、そしてまだ終わっていないことを評価し、みなさんが、望んでいなかった妥協をしていることに感謝する。
- この協定は紙切れ一枚だが、その紙切れに見合う価値があるかどうかの尺度は、将来のパンデミックにおいて命を救い、苦しみを防ぐことができるかどうかだ。そのために皆さんはここにいる。
- 世界の人々に、あなた方の国の人々に、あなた方が代表する人々に、より安全な未来を与えて欲しい。

2024 年 5 月 7 日

[WHO Director-General's remarks at the Global Science Summit – 6 May 2024](#)

I congratulate the Foundation on its 100th birthday, and for everything it has achieved in the past century. We very much appreciate your support for WHO, and for global health more broadly.

世界サイエンスサミットでの事務局長発言

世界サイエンスサミットにおいて、テドロス事務局長は以下のように述べました。

《DG 発言要旨》

- WHO、そしてグローバルヘルスに対する皆様のご支援に深く感謝する。そして、ビル & メリンダ・ゲイツ財団、ウエルカム・トラストとともに、グローバルヘルスにおける喫緊の課題に対する研究開発に 3 億米ドルを投資するという、本日の発表を心より歓迎する。
- 1990 年代後半以降、非感染性疾患は感染症を抜き、アフリカ大陸を除くすべての地域で、世界の早期死亡の主な原因となっている。気候危機はすべての生命が依存する地球の居住可能性そのものを脅かしている。紛争、移住、移動による健康への脅威、1 世紀にわたる進歩を台無しにする薬剤耐性、高齢化という課題は言うまでもない。
- 私たちは、これらの脅威が相互に関連していることを知っている。
- 科学、研究、データ、イノベーションは常に公衆衛生を改善する原動力であり、WHO で私たちが行うすべてのことの中核である。私が最も誇りに思っていることのひとつは、WHO に初めて科学部門を設置したこと。科学と研究のおかげで、私がこれまで述べてきた問題はすべて解決策がある。
- 治安の悪さ、貧困、孤立、ジェンダー、その他多くの要因により、世界人口の半数以上が 1 つ以上の必須の医療サービスにアクセスできていない。そして 20 億人が、医療費のために経済的困難に直面している。私たちは過去 20 年間で、個々の疾病に対しては大きな進歩を遂げたが、プライマリヘルスケアを基盤とし、ユニバーサルヘルスカバレッジを約束した強力な健康システムの構築には十分な投資を行ってこなかった。
- グローバルヘルスにおける喫緊の課題に真に取り組むためには、不公平に対処しなければならない。そしてそれは、健康部門だけの仕事ではない。特に、人間、動物、環境の健康の密接なつながりを認識するワンヘルス・アプローチが必要。
- 私たちが直面している脅威が分野を超えているのと同様に、国境も超えている。グローバルな脅威にはグローバルな対応が必要。病原体は、人間が地図上に描く線も、イデオロギーも、経済の規模も、私たちが互いに隔てるために用いる他の何ものも、まったく意に介さないということを認識するために、今こそ各国が一致団結すべき時だ。

2024 年 5 月 9 日

[2024–2027 Strategic Framework](#)

At the mid-point of the 2030 target for the Sustainable Development Goals (SDGs), progress towards achieving universal health coverage (UHC) is off track.

UHC 2030 : 2024 – 2027 戦略的枠組み

持続可能な開発目標 (SDGs) の 2030 年目標の中間点において、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の達成に向けた進捗は当初想定した軌道から外れています。最新のデータによると、世界人口の半数以上にあたる少なくとも 45 億人が、必要不可欠な健康サービスを十分に受けていません。また、20 億人が医療費の自己負担のために経済的困難を経験しています。特に中低所得国に住む、社会的弱者や社会から疎外された状況にある人々が、最も深刻な影響を受けています。

UHC 2030 の 2024 - 2027 年戦略的枠組みは、2027 年の UHC に関する次回の国連ハイレベル会合に向けて、また SDGs の 2030 年のマイルストーンに向けて、UHC 2030 がどのように活動し、どのような価値を付加していくかを示し、2024 年から 2027 年までにたどる変化に向けた 3 つの道筋で構成されています。

1. アドボカシー (UHC を推進するための政治的、経済的、社会的機関による決定に影響を与えること)、
2. アカウンタビリティ (UHC のための行動、決定、政策、プログラムを促進するための公約の実施を追跡すること)、
3. アラインメント (ステークホルダーを招集し、情報交換を行い、国家計画とのアラインメントと、保健システム強化のための国家構造内での取り組みの重要性を高めること)

この戦略的枠組みは、UHC 2030 のすべての構成員が参加する包括的な協議プロセスを経て策定されました。

(備考) UHC 2030 (2030 年の UHC 達成に向けた国際保健パートナーシップ : UHC の推進・啓発・説明責任・知見共有を目的としたパートナーシップ。WHO、世界銀行 (WB)、経済協力開発機構 (OECD) が共同でホストする形で 2016 年に設立。

2024 年 5 月 9 日

[New WHO/Europe report highlights a direct link between COVID-19 and increased obesity in school-aged children](#)

A new report from WHO/Europe confirms what has long been suspected: a link between the COVID-19 pandemic and increased rates in obesity among children 7 to 9 years old.

WHO / 欧州 : COVID-19 と学齢期の子どもの肥満増加との直接的な関連を強調

WHO / 欧州による『COVID-19 パンデミックが学齢児童の日常生活と行動に与えた影響に関する報告書 : WHO 欧州地域 17 加盟国の結果』と題された新しい出版物は、子供たちがパンデミックによって画面を見ている時間が増え、身体活動が減少し、同じ年齢層で過体重の児童が増加したことを示す調査結果を紹介しています。新型コロナウイルス感染症のパンデミックと 7 歳から 9 歳の子供の肥満率増加との関連性を裏付けるものです。

パンデミックは、小児肥満への取り組みの緊急性を浮き彫りにしました。当地域の国々は、発育のあらゆる段階において、子どもたちの健康的な食事と身体活動を優先させることで、より良い状態を

取り戻す必要があります。

2024年5月9日

[WHO Results Report 2023 shows notable health achievements and calls for concerted drive toward Sustainable Development Goals](#)

The World Health Organization (WHO) [Results Report 2023](#), the most comprehensive to date, showcases achievement of key public health milestones, even amid greater global humanitarian health needs driven by conflict, climate change and disease outbreaks.

WHO の 2023 年次報告書

世界保健機関 (WHO) 年次報告書 2023 は、これまでで最も包括的なものであり、紛争、気候変動、疾病の流行によって世界的な人道的保健ニーズが高まる中においても、公衆衛生の主要なマイルストーンが達成されたことを紹介しています。

WHO 国別事務所の 96 % (174 カ国) が国別報告書を提出し、46 の目標に対する進捗状況と課題を明らかにしています。

本報告書では、健康アウトカムにおける著しい格差、COVID-19 パンデミックによる混乱、そして持続的な医療従事者不足には教育と雇用への投資が必要であることを認めています。

世界は、トリプル 10 億の目標および保健関連のほとんどの持続可能な開発目標 (SDGs) に対して達成する軌道から外れています。しかし、進捗を加速させるための具体的かつ協調的な行動をとれば、目標のかなりの部分を達成することは可能です。

WHO の目標は、私たちの使命を支える持続可能で柔軟な資金を確保しつつ、最も重要な場所、すなわち国レベルでさらに多くの資源を投入することです。

2024年5月9日

[World Asthma Day: WHO calls for better education to empower people living with asthma](#)

Asthma education is a critical tool to improve the lives of people living with asthma around the globe.

世界喘息デー：WHO は喘息とともに生きる人々に力を与える教育の充実を呼びかけ

喘息教育は、世界中で喘息を抱えて暮らす人々の生活を改善するための重要なツールです。喘息は、子どもから大人まで罹患する慢性呼吸器疾患です。世界中で 2 億 5,000 万人以上が喘息を抱えて暮らしており、2019 年には喘息により推定 45 万 5,000 人が死亡しています。喘息による早期死亡のほとんどは低中所得国 (LMIC) で発生しており、そこでは過少診断と過小治療が一般的です。

喘息と共存することは難しいことですが、教育により、喘息を抱えて暮らす人々とその家族の症状への理解が深まり、喘息の治療を管理できるようになります。

喘息とは何か、喘息の症状、喘息治療薬の正しい使い方などの情報は、医師、看護師、薬剤師、その他のヘルスケア専門家によって提供され、個別の喘息アクションプランを含むことが理想的です。また、学校やピアサポートグループを通じて喘息教育を提供する例もあります。デジタル技術の普及に伴い、携帯電話やデジタルアプリケーションを喘息教育の支援に利用することもできます。

慢性呼吸器疾患に対するグローバル・アライアンス (GARD) は、WHO の提唱するネットワークで、LMICs を中心に慢性呼吸器疾患の世界的な負担軽減に取り組んでいます。

WHO と GARD メンバーによる喘息教育リソースは、WHO Knowledge Action Portal on NCDs のテーマ別コレクションに掲載されています。

2024年5月9日

[Bridging disciplinary and sectoral silos to strengthen pandemic preparedness and response](#)

WHO, OECD and the World Bank call for the development of more holistic tools and collaborations in anticipation of future pandemics and epidemics.

パンデミックへの備えと対応を強化するため、学問分野と政策執行当局との連携強化

WHO、OECD (経済協力開発機構)、世界銀行は、将来のパンデミックや伝染病を予測し、より総合的なツールの開発と協力を呼びかけています。

Covid-19 パンデミックの広範囲に及ぶ影響は、エビデンスに基づいた、透明で包括的な意思決定の必要性を浮き彫りにしました。政策立案者は、不確実性の中で複雑な選択を迫られ、経済的な影響や社会のウェルビーイングに与える予期せぬ影響を考慮しながら、対応策を常に見直してきました。こうした意思決定の根拠を効果的に伝えることが、透明性と社会的信頼を必要とする課題となっています。

パンデミックを引き起こしやすい病原体の脅威が高まる中、[WHO、OECD、世界銀行が共同で発表した新しいガイダンス](#)では、こうした課題に取り組む上で数理モデリング (特に統合モデリング) が果たす役割が明らかにされており、疫学的要因、マクロ経済的要因、行動学的要因を共有の分析フレームワークの中で組み合わせることで、統合モデルは政策の影響に影響を与える多様な要因を捉えるのに役立ちます。

2024年5月13日

[New guidance aims to reduce bloodstream infections from catheter use](#)

The World Health Organization (WHO) publishes the first global guidelines to prevent the occurrence of bloodstream and other infections caused by use of catheters placed in minor blood

vessels during medical procedures.

カテーテル使用による血流感染症の減少を目指す新しいガイダンス

カテーテルによる治療を受ける人は、感染症にかかりやすく、医療処置中に細い血管に留置されたカテーテルの使用によって引き起こされる血流感染症やその他の感染症の発生を防ぐため、世界保健機関 (WHO) は初の世界的なガイドラインを発表しました。

WHO の推計によると、2000 年から 2018 年の間に、医療関連敗血症に罹患した患者の平均死亡率は 24.4 % で、集中治療室で治療を受けた患者では 52.3 % に増加し、多くの血流感染症は、抗生物質耐性菌による感染症が原因です。細菌の抗菌薬耐性 (AMR) は、少なくとも 127 万人の死亡に直接関与し、2019 年にはさらに 495 万人の死亡に寄与したと推定されています。

新ガイドラインには、医療従事者の教育と訓練、無菌操作と手指衛生の実践、カテーテルの選択・挿入・抜去など医療従事者のための 14 の実践と 23 の勧告が含まれています。

2024 年 5 月 13 日

[Governments agree to continue their steady progress on proposed pandemic agreement ahead of the World Health Assembly](#)

Governments of the world today agreed to continue working on a proposed pandemic agreement, and to further refine the draft, ahead of the Seventy-seventh World Health Assembly that starts 27 May 2024.

世界保健総会に先立ち、各国政府はパンデミック協定案の着実な進展継続に合意

5 月 10 日、ジュネーブの世界保健機関 (WHO) 本部で開催された会議において、各国政府は、27 日から開催される 第 77 回 世界保健総会に先立ち、パンデミック協定の草案について作業を継続し、草案をさらに洗練させることに合意しました。

各国政府は、病原体へのアクセスと利益配分のための新たなグローバルシステム案、パンデミック予防とワンヘルス、パンデミックへの準備と対応に必要な各国の能力を拡大するために必要な財政的調整、など重要な問題についての作業を進めるため、協議を再開します。

2024 年 5 月 13 日

[WHO Publishes Six Country Case Studies on Local Production Ecosystems for Pharmaceuticals, Vaccines, and Biologicals](#)

The WHO is announcing the publication of six country case studies that explore the ecosystem for local production of pharmaceuticals, vaccines, and biologicals in low- and middle-income countries (LMICs).

医薬品・ワクチン・生物学的製剤の現地生産エコシステムに関する 6

カ国の事例研究

WHO は、中低所得国 (LMICs) における医薬品、ワクチン、生物学的製剤の現地生産のエコシステムを探る、バングラデシュ、ケニア、ナイジェリア、パキスタン、セネガル、チュニジアの 6 つの国別ケーススタディを発表しました。この包括的な調査は、必須医薬品へのアクセスを改善するため、現地生産を強化する加盟国を支援する WHO の継続的なコミットメントを強調するものです。

この研究は、医薬品やその他の医療技術へのアクセスを改善し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジや持続可能な開発目標を達成する上で、現地生産の役割を強調する WHO の画期的な決議 WHA 74.6 に沿ったもので、利用可能な政策、イニシアチブ、資金調達、規制制度、特許保護、研究開発、市場構造、現地生産能力など、各国の現地生産エコシステムに関する資料を得て、現地生産における様々な課題と機会についての包括的な見解や、LMICs が現地生産能力を強化するための提言を行います。

2024 年 5 月 13 日

[Long-term care for older people: package for universal health coverage](#)

This publication includes a list of LTC interventions that all countries could consider, prioritize and provide and could integrate within health and social care sectors, depending on their context.

高齢者の長期ケア：ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) のためのパッケージ

世界的な高齢化と平均寿命の伸びに伴う疾病罹患率の増加や身体機能の低下による高齢者の複雑なケアニーズに対応するため、短期・長期ケアへのアクセスに対する需要が高まっています。

ほとんどの国で家族がケアとサポートの主要な供給源であることに変わりはありませんが、急速な人口動態と社会の変化によって、高齢者と家族や女性の介護者に対するケアのより公平な社会的分配を求める観点から、家族のケアとサポートだけに依存するのは明らかに望ましくなくなっています。正式な LTC (長期ケア) 制度の欠如と訓練された介護従事者の不足は、特に低・中所得国において、満たされていない介護ニーズの大幅な増加と、高齢者とその家族に対する世界的な経済的負担の一因となっています。

本書には、すべての国がユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) に向けて、正式で統合された LTC 制度とサービスを設計、確立、拡大する全体的な計画に沿って実施するべきで、各国の状況に応じて検討し、優先順位をつけ、提供し、保健・社会ケア部門に統合することのできる LTC 介入策のリストが示されています。

本パッケージは、主に国や地方レベルで LTC サービス提供の計画や実施を担当する政府や政策立案者を対象としており、地域のニーズや資源に応じて、必要不可欠な LTC の介入を予見し、主流化するためのガイダンスを提供するものです。

2024年5月13日

[World No Tobacco Day 2024](#)

World No Tobacco Day 2024 will give a platform to young people across the world, who are urging governments to shield them from predatory tobacco marketing tactics.

世界禁煙デー 2024

5月31日は世界禁煙デーです。

今年のテーマは、タバコ産業の干渉から若者を守ること (protecting young people from tobacco industry interference) です。

タバコ産業は、若者に影響を与え、干渉し、さまざまな広告に年間約 80 億ドルを費やし、生涯にわたって人々から利益を得るために若者をターゲットにし、新たな中毒の波を作り出しており、すべての地域で、子どもたちが大人よりも高い割合で電子タバコを使用しており、世界全体では 13 ~ 15 歳の青少年 3,700 万人がタバコを使用していると推定されています。

WHO のソーシャルメディア・コミュニケーション・キャンペーンは、「若者の若者による若者のための戦略」に従っており、若者たちが先頭に立ってタバコ産業が操作的で欺瞞的な戦術をとっていることを告発し、産業が健康、社会正義、環境に与える真の破壊的な影響を明らかにします。今こそ、健康な未来に対する私たちの人権を守るために立ち上がる時です。団結の力、踏み出す力を示すことによって、これに歯止めをかけましょう。

2024年5月20日

[Nations unite to eliminate mercury-containing medical devices](#)

The governments of Albania, Burkina Faso, India, Montenegro and Uganda have joined forces in a historic endeavour to tackle chemical pollution. Today marks a significant milestone as these nations unveil a US\$ 134 million project to eliminate the use of mercury in medical devices..

水銀を含む医療機器の廃止に向けて各国が一致団結

国連環境計画 (UNEP) が主導し、地球環境ファシリティー (GEF) が資金を提供し、世界保健機関 (WHO) が実施する「医療における水銀測定器の段階的廃止」プロジェクトは、体温計と血圧計の輸出入と製造を段階的に廃止するための国家規模の戦略を策定し、実施するものです。

アルバニア、ブルキナファソ、インド、モンテネグロ、ウガンダの各国政府は、医療機器における水銀の使用を廃止するための 1 億 3,400 万米ドルのプロジェクトを発表し、WHO の勧告と水銀に関する水俣条約に従って、広く入手可能な代替機器の有効性について調達担当者を教育し、製造業者と一般市民の意識を高める予定です。

このプロジェクトは、水銀を用いた体温計と血圧計を年間 20 % の割合で段階的に廃止し、流出量を 23,350 kg 削減し、180 万人以上の人々の生活を改善することを目指しています。

2024年5月20日

[WHO prequalifies new dengue vaccine](#)

A new vaccine for dengue received prequalification from the World Health Organization (WHO) on 10 May 2024. TAK-003 is the second dengue vaccine to be prequalified by WHO. Developed by Takeda, it is a live-attenuated vaccine containing weakened versions of the four serotypes of the virus that cause dengue.

WHO、新 Dengue ワクチンを事前認証

Dengue 熱は、感染した蚊に刺されることで感染するベクター媒介性疾患です。重症 Dengue 熱は、Dengue 熱感染から発症する可能性のある致死的な合併症ですが、この度、Dengue 熱の新しいワクチンが WHO (世界保健機関) から事前認証を受けました。

武田薬品が開発した TAK-003 は、WHO が事前認証を取得した 2 番目の Dengue 熱ワクチンで、Dengue 熱の原因となる 4 種類の血清型ウイルスを弱毒化した弱毒生ワクチンです。今回の事前認証は、サノフィ・パスツールが開発した CYD-TDV ワクチンに続くものです。

Dengue 熱の患者数は世界で毎年 1 億～ 4 億人以上、Dengue 熱流行国には 38 億人が住んでいると推定されており、そのほとんどがアジア、アフリカ、アメリカ大陸です。最も多くの Dengue 熱患者が報告されたのは 2023 年で、WHO の南北アメリカ地域では 450 万人の患者と 2,300 人の死者が報告されました。今後、気候変動や都市化により、Dengue 熱患者は増加し、地理的にも拡大する可能性があります。これらワクチンが Dengue 熱の予防に寄与し、感染者や死亡者が減ることが期待されます。

2024年5月20日

[Guidance for One Health field epidemiology workforce development](#)

In a significant step forward to strengthen global health security, the Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO), the World Health Organization (WHO), and the World Organisation for Animal Health (WOAH) released the first-ever global guidance to develop One Health field epidemiology competencies to support workforce development for prevention, preparedness, and response to health threats.

ワンヘルス分野の疫学人材育成のためのガイダンス

ワンヘルス現場疫学能力 (COHFE : Competency for One Health Field Epidemiology) フレームワークは、ヒト、動物、および環境衛生の相互に関連した分野における最前線の対応者を訓練するための標準化されたアプローチを確立するもので、この分野の専門人材は、疾病アウトブレイクを発生源で検出、調査、対応する上で重要な役割を果たし、ワンヘルスアプローチを用いてすべての部門の健康を守る事が出来ます。

国際連合食糧農業機関 (FAO)、世界保健機関 (WHO)、国際獣疫事務局 (WOAH) は、世界の健康安全保障 (global health security) を強化するため、COHFE フレームワークとガイダンスを発表しました。

グローバルヘルス・セキュリティへの、より協力的で効果的なアプローチに向けた重要な一歩です。現場の疫学者が必要なワンヘルスの能力とスキルを身につけることで、私たちは潜在的な伝染病やパンデミックを予防し、すべての人にとってより強靱な未来を築くことができます。

2024年5月20日

[Global arbovirus initiative: preparing for the next pandemic by tackling mosquito-borne viruses with epidemic and pandemic potential](#)

Following a series of global consultations and review by the Technical Advisory Group on Arbovirus (TAG-Arbovirus), the Global Arbovirus Initiative and its 6 constituent pillars, each with strategic objectives and priority activities, are consolidated in this reference document.

世界的アルボウイルス対策

蚊やダニ等の吸血昆虫によって媒介され、人や家畜等に感染するウイルスを総称して「アルボウイルス」といいます。

パンデミックの可能性を持つアルボウイルスの出現や再出現のリスクは、グローバルヘルス上の脅威として高まっており、人の移動の増加、都市化、気候変動による蚊媒介者の環境適応、蚊媒介者集団の無秩序な拡大などにより拡大し続け、グローバルヘルス上の脅威として高まっており、今後もその傾向は続きます。

世界アルボウイルス計画は、特にアルボウイルスの負担が最も大きい地域や、アルボウイルスが出現するリスクのある地域において、限られた資源を最適に活用し、最大の効果を達成できるよう、これらのウイルスや専門分野にまたがる統合的なアプローチを概説し、このアプローチでは、まずチクングニア、デング熱、黄熱病、ジカ熱などのネットタイシマカを媒介とするウイルスに焦点を当てています。

一連の世界的な協議とアルボウイルス技術諮問グループ (TAG-Arbovirus) による検討を経て、世界アルボウイルスイニシアティブとその6つの柱は、それぞれが戦略的目標と優先的活動を持ち、この文書に集約されています。

《6つの柱》

1. リスクの監視と予測
 2. 地域のエピデミックのリスクの低減
 3. ベクターコントロール (媒介害虫駆除) の強化
 4. パンデミックの予防と準備
 5. イノベーションと新たなアプローチの強化
 6. パートナー連合の構築
-

2024年5月20日

[Innovation for urban health: policy brief](#)

This policy brief reflects and offers guidance on how national and subnational governments can catalyze and capitalize on social, technological, and institutional innovation for urban health, including by maintaining a flexible, capable, and innovative public sector and supporting other sectors and communities.

健康都市 (urban health) のためのイノベーション：ポリシー・ブリーフ

都市環境における人々の健康を守り、促進することは、どこの国でも国や地方政府にとって差し迫った課題です。多くの国々では、ほとんどの人が都市に住んでおり、まだその閾値に達していない国でさえ、急速に都市化が進んでいます。

一般的に、都市は健康や経済的な恩恵をもたらし、都市保健活動に適した環境を提供する一方で、都市特有のリスクや課題ももたらし、実際、全体的に健康的な場所になっても、回避可能な健康リスク、危害、不公平の多くは、世界中の都市に根強く残っています。

このポリシー・ブリーフは、主に国や自治体の意思決定者とその技術スタッフを対象とし、都市の健康のために社会的、技術的、制度的な革新を促進し、それを活用する方法について考察し、指針を示すもので、既存の国際的なガイドライン、学術文献、研究、政策、実践の専門家が参加した参加型ワークショップの洞察に基づいています。

2024年5月20日

[Handbook for non-State actors on engagement with the World Health Organization, second edition](#)

This Handbook walks non-State actors engaging with the World Health Organization (WHO) through the principles and processes of the Framework of engagement with non-State actors (FENSA) to ensure smooth interaction with WHO.

WHO との関わりに関する非国家主体向けハンドブック – 第 2 版

このハンドブックは、世界保健機関 (WHO) に関与する非国家主体が、WHO との円滑な相互作用を確保するために、非国家主体との関与の枠組み (FENSA : Framework of engagement with non-State actors) の原則とプロセスを通じて説明するものです。

この枠組みは、WHO と非国家主体との関わりを促進するための一連の主要原則と運営手順を提供する政策です。WHO は、このような非国家主体との関わりを強化・充実させるとともに、非国家主体が潜在的に内包するリスクに対する管理を強化しています。この方針は、WHO の完全性、評判、公衆衛生の権能を保護し維持すると同時に、非国家主体との関わりにおいて公平な競争条件が適用されることを保証し、期待される利益とリスクのバランスをとる努力を導きます。

2024年5月20日

[World Food Safety Day 2024](#)

World Food Safety Day on 7 June 2024 will draw attention to food safety incidents. This year's theme underlines the importance of being prepared for food safety incidents, no matter how mild or severe they can be.

2024年「世界食品安全の日」

毎年6月7日は国際連合が定める「世界食品安全の日」で、今年のテーマは、『食品安全：予期せぬ事態に備える』です。食品安全インシデントの軽重にかかわらず、それに備えることの重要性を強調するものです。

200以上の病気が、汚染された食品を食べることによって引き起こされており、汚染された食品を食べた後、世界中で毎年6億人以上が病気にかかり42万人が亡くなっている、10人に1人が食中毒を発症しその負担の40パーセントは5歳未満の子供が担っています。

食品が安全でない場合、人々は健康を維持し、学び、働くために必要な栄養素を摂取することができません。生産者から消費者までのフードチェーンにおいて食品の安全性が優先されれば、これらの病気や死はほとんど防ぐことができます。食品安全はすべての人の問題です。

《キーメッセージ》

- 備えが肝心
- 多部門の協力が効果的な対応を確保
- 迅速な情報交換が人命を救う
- 効果的なコミュニケーションが食品供給への信頼を維持
- 食品安全管理計画は消費者の保護に役立つ
- 食品事業者の断固とした行動は、すべての人に利益をもたらす
- 誰もがリスク管理者

2024年5月20日

[Ground-breaking progress made in Member State negotiations on amendments to the International Health Regulations \(IHR\)](#)

In an historic milestone for global public health, State Parties today agreed in principle on a large, ground-breaking package of amendments to the International Health Regulations (2005). These amendments build on over 300 proposals made by countries in the wake of the COVID-19 pandemic.

画期的な進展：IHR 2005 (国際保健規則) 改正案に合意

世界の公衆衛生にとって歴史的な出来事として、締約国は本日、国際保健規則 (International Health Regulations 2005) の大規模かつ画期的な改正案に基本合意しました。これらの改正は、COVID-19 パンデミックを受けて各国が行った 300 を超える提案に基づいています。

これらは、国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 (PHEICs) に対する各国の準備、検出、対応能力を向上させることを目的としており、世界保健総会 (WHA) (5 月 27 日から 6 月 1 日まで開催) に提出されるパッケージの一部となります。

交渉担当者は来週再び会合を開き、最終決定が必要な残り少しの問題について作業を進める予定です。

2024 年 5 月 20 日

[WHO updates list of drug-resistant bacteria most threatening to human health](#)

The World Health Organization (WHO) today released its [updated Bacterial Priority Pathogens List \(BPPL\) 2024](#), featuring 15 families of antibiotic-resistant bacteria grouped into critical, high and medium categories for prioritization. The list provides guidance on the development of new and necessary treatments to stop the spread of antimicrobial resistance (AMR).

薬剤耐性菌のリストを更新

AMR は、細菌、ウイルス、真菌、寄生虫が薬に反応しなくなることで発生し、人々を病気にし、病気の蔓延、病気、死亡のリスクを高めます。AMR は、抗菌薬の誤用や過剰使用によって引き起こされています。

世界保健機関 (WHO) は「細菌優先病原体リスト (BPPL : Bacterial Priority Pathogens List) 2024」を更新し、15 の抗生物質耐性菌ファミリーを重要、高、中のカテゴリーに分類して優先順位を決定しました。

このリストは、薬剤耐性 (AMR) の蔓延を阻止するために必要な新たな治療法の開発に関する指針を提供するもので、新しい抗生物質の研究開発 (R & D) の指針となり、国際的な協調によりイノベーションを促進するため、新しいエビデンスと専門家の洞察を取り入れています。

2024 年 5 月 20 日

[Implementing the primary health care approach: a primer](#)

This Primer is about the 'how' of primary health care (PHC) and brings together best practices and knowledge that countries have generated through 'natural experiments' in strengthening PHC with the best available research evidence.

プライマリー・ヘルスケア・アプローチの実施：入門書

この入門書は、プライマリーヘルスケア (PHC) の「方法」について書かれたもので、PHC を強化

するための自然実験 (natural experiments) を通じて各国が生み出したベストプラクティスや知識を、入手可能な最良の研究エビデンスとともにまとめたものです。

PHC は、実践的な実施上の問題に対処するための必要な科学的根拠と、各国にわたる広範な実践経験のサンプルの両方を統合することによって実現されるため、入門書は PHC を現代的に理解し、PHC 指向の保健システムを強化するため「明確な概念」を提供します。

本書は 3 部 構成となっています。

第 1 部 は、PHC のアプローチ、その歴史、核となる概念と根拠を説明し、変革のための教訓を導き出します。

第 2 部 は、PHC を機能させるための運営と戦略的な手段を取り上げます。ガバナンス、資金調達、保健人材、医薬品、医療技術、インフラ、デジタルヘルスと、変革の実施におけるそれらの役割を取り上げています。

第 3 部 では、PHC が保健システム、効率性、ケアの質、公平性、アクセス、財政的保護、気候変動に直面した場合を含む保健システムのレジリエンスに与える影響について、横断的な見解で締めくくります。

2024 年 5 月 20 日

[77th World Health Assembly](#)

The Seventy-seventh World Health Assembly is being held in Geneva, Switzerland, on 27 May – 1 June 2024. The theme of this year's Health Assembly is: All for Health, Health for All.

第 77 回 世界保健総会、5 月 27 日 ~ 6 月 1 日に開催

第 77 回 世界保健総会 (WHA77) は、2024 年 5 月 27 日から 6 月 1 日まで、スイスのジュネーブで開催され、今年のテーマは " All for Health, Health for All " です。

主な議題は以下の通りです。

- WHO 第 14 次総合事業計画 (GPW14) の承認。2025 年から 2028 までの世界保健に関する WHO の新戦略は、気候変動、高齢化、移民、科学技術の進歩などのメガトレンドが健康と福祉に及ぼす影響に対処するもので、この 4 年間は、健康関連の持続可能な開発目標 (SDGs) を軌道に乗せるための入り口となる。
 - WHO の持続可能な財政組織に向けた 第 1 回 投資ラウンドおよび 第 3 回 投資ケースのハイレベル発表。
 - パンデミックの予防、準備、対応に関する協定は、WHO 加盟国が主導するもので、すべての国が将来のパンデミックによりよく備え、効果的かつ公平に対応できるようにすることを目的とする。
 - 気候変動と保健、緊急事態、変革ツールへのアクセス、抗菌薬耐性、感染症、非感染性疾患 (NCDs) 、メンタルヘルス、女性の健康、WHO 自体の変革など、さまざまな保健の優先事項に関する決定。
-

2024年5月27日

[Takeaways from the Third Global Consultation on the Health of Refugees and Migrants](#)

Today, a comprehensive [report](#) was released which captures the key takeaways and action items from the Third Global Consultation on the Health of Refugees and Migrants.

難民と移民の健康に関する 第 3 回 世界協議 (報告書)

「難民と移民の健康に関する 第 3 回 世界協議」の主な成果と行動項目をまとめた包括的な報告書が発表されました。

世界中で推定 10 億人が国内または国境を越えて移動しており、そのうち 1 億 1 千万人が強制避難しています。これらの数は増加しており、迫害、紛争、気候関連の災害などによりさらに増加する可能性があります。健康への権利とすべての人々のためのユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) に対する世界的なコミットメントにもかかわらず、世界中の多くの難民や移民は、質の高い医療や社会サービスへのアクセスに苦慮しています。

この報告書は、2023 年 6 月 13 日から 15 日にかけて開催され、ラバト宣言の採択につながったハイレベルイベントの共同主催者である IOM (国際移住機関)、モロッコ王国、UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) との共同制作で、協議会での重要な議論を要約し、各国政府、国連機関、パートナーが協議会で検討するための実行可能なステップを提供するものです。

2024年5月27日

[Global report on neglected tropical diseases 2024: executive summary](#)

This document is the executive summary of the Global report on neglected tropical diseases 2024, which is the second in a series of global reports describing progress towards the 2030 targets set in the road map for neglected tropical diseases 2021–2030. The summary is available in the six official UN languages.

顧みられない熱帯病に関する世界報告書 2024 : 要旨

本書は、2021 - 2030 年の顧みられない熱帯病に関するロードマップで設定された 2030 年目標に向けた進捗状況を報告する世界報告書シリーズの第 2 弾である、2024 年顧みられない熱帯病に関する世界報告書のエグゼクティブ・サマリーです。

2022 年には、16 億 2,000 万人が顧みられない熱帯病 (NTDs) に対する介入を必要としています。これは 2010 年から 26 % 減少したとはいえ、2030 年までに 90 % 削減するというロードマップの世界目標達成に必要な軌道を示すものではありません。課題は山積しており、進展の遅れは、世界規模で NTDs に取り組むことの複雑さを浮き彫りにしています。ロードマップで設定された野心的な目標を達成することが困難な背景には、不確実で変化し続ける保健、政治、財政の状況があります。

このような課題にもかかわらず、重要なマイルストーンが達成されました。2023 年には、WHO

により、5 カ国が 1 つの NTDs を排除し、1 カ国が 2 つの NTDs を排除したことが認められました。2023 年 12 月現在、合計 50 カ国が少なくとも 1 つの NTD の制圧に成功し、2030 年の目標である 100 カ国制圧に向けた中間地点に達しました。同時に、このグループに新たな国々を加え、より多くの疾病に取り組むための革新的な取り組みの必要性も強調しています。

2024 年 5 月 27 日

[New report flags major increase in sexually transmitted infections, amidst challenges in HIV and hepatitis](#)

Global HIV, viral hepatitis epidemics and sexually transmitted infections (STIs) continue to pose significant public health challenges, causing 2.5 million deaths each year, according to a new WHO report - [Implementing the global health sector strategies on HIV, viral hepatitis and sexually transmitted infections, 2022–2030](#).

性感染症の大幅な増加が明らかに

WHO の新しい報告書「HIV、ウイルス性肝炎、性感染症に関する世界保健セクター戦略の実施 (2022 – 2030 年)」によると、世界的な HIV、ウイルス性肝炎、性感染症 (STI) の流行は、毎年 250 万人の死亡を引き起こし、公衆衛生上重大な課題をもたらし続けています。この報告書は、2022 年から 2030 年にかけての HIV、ウイルス性肝炎、性感染症 (STI) に関する世界保健セクター戦略の進捗状況をまとめたものです。

2022 年、WHO 加盟国は成人梅毒の年間感染者数を 2030 年までに 710 万人から 71 万人に減らすという野心的な目標を設定しました。しかし、この新しいデータによると多くの地域で STI が増加し、15 ~ 49 歳の成人の新規梅毒患者は 2022 年に 100 万人以上増加し、800 万人に達し、最も増加率が高いのは、南北アメリカ地域とアフリカ地域です。

報告書は、HIV とウイルス性肝炎の新規感染者数の減少が不十分であることと相まって、2030 年までの持続可能な開発目標 (SDGs) の関連目標の達成を脅かす危険性を指摘し、第 77 回 世界保健総会で討議される予定です。

2024 年 5 月 27 日

[Largest number of regulatory agencies for medical products approved as WHO Listed Authorities](#)

WHO has approved designation of 33 national and regional regulatory authorities as WHO Listed Authorities (WLAs) that can be relied on for fulfilling the highest level of regulatory standards and practices for quality, safety and efficacy of medicines and vaccines.

WHO リスト登録医薬品規制機関の数が最多になった

WHO は、33 の国と地域の規制当局を、医薬品とワクチンの品質、安全性、有効性に関する最高

レベルの規制基準と慣行を満たすために信頼できる WHO リスト登録当局 (WLAs : WHO Listed Authorities) に指定することを承認し、2022 年 3 月に WLA 構想が開始されて以来、このリストにより加盟 34 か国の 36 規制当局が WLA として指定されたこととなります。

この決定は、医薬品・ワクチンの品質、安全性、有効性を確保するための国際基準やベスト・レギュラトリー・プラクティスに沿って、これらの当局が先進的な実績を上げていることを確認する WHO の実績評価に基づく、技術諮問グループ (TAG - WLA) による勧告によるものです。

WLA の枠組みが拡大されることは、世界の公衆衛生規制のあり方を大きく変える画期的な出来事です。これらの機関は、医薬品やワクチンの品質と安全性を保証し、プロセスを合理化し、リソースを最適化し、医薬品やワクチンへのアクセスの迅速化を進めるものです。

2024 年 5 月 27 日

[New research flags the urgent need for research and evidence on the impact of climate change on neglected tropical diseases and malaria](#)

The World Health Organization's (WHO) Task Team on Climate Change, Neglected Tropical Diseases (NTDs) and Malaria, in partnership with Reaching the Last Mile (RLM), has released a major scoping review published in [Transactions of the Royal Society of Tropical Medicine and Hygiene](#).

顧みられない熱帯病とマラリアに与える気候変動の影響とエビデンスの必要性 [レビュー]

世界保健機関 (WHO) の「気候変動と顧みられない熱帯病 (NTDs) およびマラリアに関するタスクチーム」は、リーチング・ザ・ラスト・マイル (RLM) と共同で、英国王立熱帯医学・衛生学会の論文集に掲載された大規模なスコーピング・レビューを発表しました。

42 編の 693 本の論文をレビューした結果、人為的な気候パターンの変化がマラリアや NTDs に与える実際の影響や潜在的な影響について、まだ十分な理解が得られていないことが明らかになりました。

気温の上昇と気象パターンの変化により、ベクター媒介疾患の蔓延が変化しており、人間の健康に重大な影響を及ぼし、システムにさらなる負担をかけています。蚊などの病気を媒介する地理的範囲が拡大するにつれて、これらの病気が新たな準備の整っていない地域に持ち込まれるリスクも高まっており、タイムリーでエビデンスに基づく介入策の開発を支援し、気候変動が人間の健康に及ぼす最悪の結果を予測・緩和するためには、研究への投資拡大が急務です。

2024 年 5 月 27 日

[Behavioral science around the world: volume III: public health](#)

This joint report from the World Bank and the World Health Organization examines the complex ways in which behavior shapes health outcomes, the historical antecedents to the current focus

on behavioral science in public health and the models adopted by over 40 behavioural insights units operating in the health sector in 26 countries around the world.

世界の行動科学：第3巻「公衆衛生」

行動とヘルスアウトカムとの関連性を理解し、それに取り組むことは、何十年もの間公衆衛生における重要な一分野でした。

2018年と2020年に、世界銀行は、行動科学を公共政策に適用するための選ばれた国 (Afif et al. 2019) と国際機関 (Manning et al. 2020) の取り組みを紹介する「世界の行動科学」に関する2つの報告書を発行しました。

第3弾としての本書は、世界銀行と世界保健機関 (WHO) の共同報告書で、行動がヘルスアウトカムを形成する複雑な方法、公衆衛生において行動科学が現在注目されるようになった歴史的背景、世界26カ国の保健セクターで活動する40以上の行動洞察ユニットが採用しているモデルを検証し、公衆衛生の分野に適用される行動科学について考察しています。

2024年5月30日

[WHO launches its first Investment Round to sustainably finance its Health for All mandate](#)

The World Health Organization (WHO) launched its first-ever [Investment Round](#) on Sunday as part of a broader plan to transform the way the Organization is funded heading into an era of climate change, mass migration, pandemic threats, an ageing world population, and turbulent geopolitics.

「Health for All」の持続可能な資金調達のため、初の投資ラウンドを開始

世界保健機関 (WHO) は、気候変動、大量移民、パンデミックの脅威、世界人口の高齢化、地政学的な激動の時代に向けて、WHOの資金調達方法を変革する広範な計画の一環として、初の投資ラウンドを開始しました。

第77回世界保健総会の前夜に行われたこの発表は、加盟国やその他の支援国がWHOの2025年から2028年までの戦略に資金を拠出し、WHOとグローバルヘルスに対するハイレベルの政治的コミットメントを示すために招かれる、各国共催の1年にわたる一連の関与とイベントの開始を意味します。

ブラジル政府は、G20議長国として、11月の首脳会議を含むハイレベル・イベントを開催し、投資ラウンドを支援するとともに、投資ラウンドへの参加を各国に呼びかけることを表明しました。

2024年5月30日

[WHO Member States agree to share outcomes of historic IHR, pandemic agreement processes to World Health Assembly](#)

WHO Member States have ended intensive negotiations aimed at strengthening global capacities to respond to future pandemics and outbreaks in the wake of the COVID-19 pandemic, and agreed to submit outcomes of their work for consideration by the upcoming World Health Assembly, starting Monday.

世界保健総会で、歴史的な IHR とパンデミック合意プロセスの成果を共有

WHO の 194 加盟国で構成される政府間交渉会議 (INB) の再開された 第 9 回 会合は 5 月 24 日に閉会し、月曜日 (27 日) から開催される世界保健総会 (WHA) での審議に向け、その成果を提出することに合意しました。また、国際保健規則 IHR 改正作業部会 (WGIHR) は、原則合意に達した一部の条項や加盟国の検討のために WGIHR 事務局が提案文を更新したその他の条項を含め、その結果を検討のために WHA に提出する予定です。

2024 年 5 月 30 日

[Shipment of newest malaria vaccine, R21, to Central African Republic marks latest milestone for child survival](#)

With two recommended vaccines and expanded supply, Gavi, UNICEF, WHO are working closely with governments and partners to increase malaria prevention and protection for children

子どもの生存に向けた新たなマイルストーン：最新のマラリアワクチン R21 を中央アフリカ共和国に出荷

マラリアは世界で最も致死率の高い病気のひとつであり、アフリカでは毎年 5 歳未満の子どもが 50 万人近く死亡しています。

中央アフリカ共和国は、世界で最もマラリア罹患率の高い国のひとつです。2022 年には、同国で推定 1,733,000 人のマラリア患者が報告され、1 日平均約 4,747 人の患者が発生しています。また、この病気は 1 年間で約 5,180 人の命を奪い、1 日に 14 人が死亡しています。

ユニセフは、中央アフリカ共和国のバンギに 4 万 3,000 回分の R21 / Matrix-M マラリア・ワクチンを空輸しました。この国は、小児期の定期予防接種に使用される R21 マラリア・ワクチンを受け取った最初の国となり、マラリアの予防と子どもたちの命を救うための新たなマイルストーンとなります。

R21 は、WHO が流行地域に住む子どもたちに推奨する 2 番目のマラリア・ワクチンで、先に WHO が推奨した RTS,S ワクチンとともに、アフリカでマラリア予防接種を拡大するのに十分なワクチンの供給が可能になりました。

両ワクチンの展開には、Gavi ワクチンアライアンス (Gavi the Vaccine Alliance) が資金を提供しています。

2024年5月30日

[COVID-19 eliminated a decade of progress in global level of life expectancy](#)

World Health Statistics 2024 report urges countries to redouble efforts towards health-related SDGs by 2030

Covid-19により、10年にわたる世界レベルの平均寿命の進歩が台無しに（世界保健統計 2024）

2019年から2021年にかけて、世界の平均余命は1.8年減少して71.4年に、健康寿命も1.5年低下して61.9年となり、2012年の水準に逆戻りしてしまいました。

世界保健機関（WHO）が発表した「世界保健統計 2024」によると、COVID-19のパンデミックにより、出生時平均余命と健康寿命（HALE：healthy life expectancy at birth）の着実な増加傾向が逆転したことが明らかになり、平均余命の改善における10年近くの進歩をわずか2年で一掃しました。また、非感染性疾患（NCDs）がパンデミック前の最大の死因であり、2019年の全死亡者の74%を占めていたことに注目しています。また、栄養不足と過体重や肥満が共存する栄養失調の二重負担という大規模かつ複雑な問題に直面しています。2022年には、5歳以上の10億人以上が肥満であると同時に5億人以上が低体重でした。さらに、世界人口の16%に当たる約13億人が障害を抱えています。

報告書は、これらのグループは、回避可能な不公平かつ不公正な状況から生じる健康格差の影響を不釣り合いに受けているとしています。

2024年5月30日

[COVID-19 eliminated a decade of progress in global level of life expectancy](#)

Past the crucial midpoint to the SDGs, the 2024 SDG3 GAP progress report, 'Aligning for country impact', focuses on alignment as the overarching principle linking efforts to deliver greater impact in countries on the health-related SDGs.

SDGs3 GAP 進捗報告書 2024

SDGs GAP (Global Action Plan for Healthy Lives and Well-being for All) は「すべての人々の健康とウェルビーイングのためのグローバル・アクション・プラン」です。

SDGsの重要な中間点を過ぎ、2024年SDGs3 GAP進捗報告書「各国の影響に向けた調整 (Aligning for country impact)」は、健康関連のSDGsに対して各国でより大きな影響を与える取り組みを結びつける包括的な原則として調整に焦点を当てていますが、現在の進捗は2030年までにこれらのターゲットを達成するために必要なことの約3分の1にすぎません。パンデミック、気候変動、長期にわたる紛争、人道的緊急事態などの複合的な危機が、SDGs達成に向けた取り組みを遅らせていますが、そうした新たな課題がなかったとしても、世界は軌道から外れていたことに留意することが重要です。

この報告書は、2024 年後半に予定されている独立評価の結果と同様に、多国間機関間の連携と協力をさらに改善する方法について、13 の署名機関の間でさらなる議論を行うための基礎となるものです。

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう 標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、WHO ニュースリリース、声明及びメディア向けノートの原文をこちらからご確認下さい。

<https://www.who.int/news-room/releases>

<https://www.who.int/news-room/statements>

<https://www.who.int/news-room/notes>